

# 健康づくり大切と学ぶ

## むつ市と弘大 大湊中で授業開始

### 「短命県」や食生活テーマ

むつ市は21日、弘前大学と連携し、子どもたちに健康づくりの大切さを学んでもらう「健康の未来」を変えろプロジェクト授業」を大湊中学校(関道雄校長)で始めた。1年生21人を対象に、12月5日まで合計5日間計7コマにわたり、短命県に悩む本県の現状や食生活の重要性の学習、エクササイズの実践などをテーマに授業を進める。

(白鳥遼)



プロジェクト授業は子どもものころから健康教養を身に付けてもらう狙い。研究の専門家である大学側と、教えることの専門家である中学側が協力し、効果的な授業を目指す。

21日は2コマの授業「『短命県』とはどんな県?」「血圧とは何だろ?」を実施。

弘前大大学院医学研究科の中路重之教授や同校教諭らが、長寿県として知られる長野県と本県の健康データの比較や、病気になる

「『健康の未来』を変えろプロジェクト授業」で中路教授らの血圧を測る生徒ら

いたための生活習慣の大切さなどについて説明。血圧と健康のつながりを知るため、実際に自分たちや周りの大人の血圧を測ったりもした。

真勢孝哉さん(13)は「将

来は医療系の職業に就きたいと思っっているので、授業で学んだことを生かして短命県返上に貢献できれば」と笑顔を見せた。

大湊中での取り組みはモデル授業の位置付けで、市

は来年度以降、全市的に授業を展開する方針。視察した宮下宗一郎市長は「子どもたちに授業で学んだことを家庭に伝えてもらい、地域全体を元気にしていきたい」と語った。